

# りんご生育情報(10月号)

【発行】 宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

令和6年10月18日発行

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

10月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径111%、ヨコ径110%と平年より大きくなっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	85.5	93.5
平年値	77.3	85.0
平年比	109%	110%

※東和町の測定値。

## 2. 気象の推移

9月14日から10月14日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。平均気温は、9月21日から24日まで平年値に比べて低くなりましたが、おおむね平年値よりも高い日が多くありました。20日から22日にかけて降水量がかなり多く、20日の最大1時間降水量は13mmを観測しました(アメダス:米山)。この3日間の大雨により、一部の園地で落果がみられました。

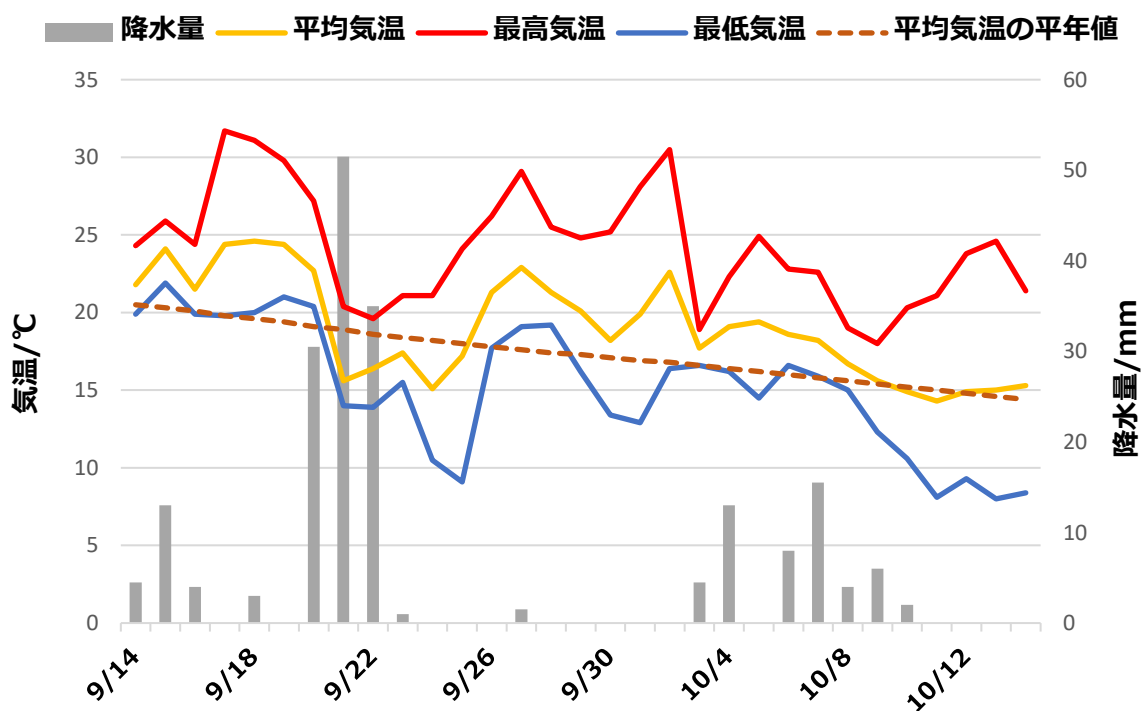


図1 9月14日から10月14日の気温・降水量の推移(アメダス地点:米山)

10月15日に仙台管区气象台が発表した早期天候情報(東北地方:10/21~10/29)によると、10月19日頃までは暖かい空気に覆われやすいため気温がかなり高く、その後21日頃までは寒気の影響でかなり低くなる所があります。しかし22日頃からは再び暖かい空気に覆われやすくなるため、かなり高い日が多い見込みです。気温の変動が大きいことが予想されます。

### 3. 「ふじ」の着色管理について

「ふじ」の着色管理の適期です。作業が遅れないよう計画的に実施しましょう。

#### 🍂 葉つみ

- ・「ふじ」は収穫 30～40 日前から開始します。
- ・葉つみは収穫までに2回程度に分けて実施します。

**1回目**：果実に直接ついた葉を中心に除去

**2回目**：光が十分当たるように果実周囲の葉を除去

- ・葉つみが早すぎたり、強すぎたりすると糖度の上昇が妨げられ、着色が不良になるうえ食味を低下させるので、注意しましょう。

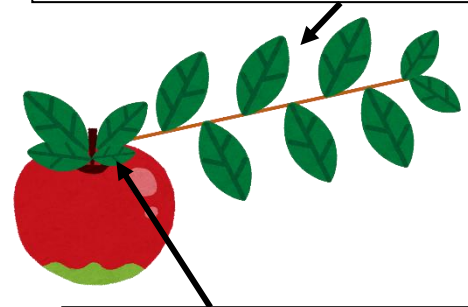
#### 🍂 玉まわし

- ・果実が30%程度着色したら1回目を実施し、その後葉つみと合わせて2回目を行うとよいでしょう。
- ・日焼け果の発生を助長しないよう、果実温の高いときに実施しましょう。

#### 🍂 反射シートの利用

- ・反射シートは収穫前 30 日ごろから敷きます。
- ・日焼けの発生を助長しないよう、反射シートは最初の 10 日程度は樹間に敷き、その後樹冠内に移動する方法が望ましいです。
- ・着色が進んでも味が伴わない場合が多いので十分味をのせてから収穫しましょう。

副梢葉・新梢葉はできるだけとらない



果そう葉を中心に日陰になっている部分のみを葉つみする

### 4. 除草剤の秋季処理について

収穫終了後～落葉前に除草剤を処理することで、翌年の6月上旬ころまで雑草を抑えることができます。田植え作業等で春先の作業が多忙な方は、秋期処理をすることで作業分散させることができます。

#### 🍂 スギナ、ギシギシなどの多年生雑草

⇒吸収移行型（商品名例：ラウンドアップマックスロード）を選択

#### 🍂 ハコベ、メヒシバなどの1年生雑草

⇒接触型（商品名例：バスタ液剤）を選択

※秋期処理(収穫後散布)は、翌年の農薬使用回数にカウントされるので注意してください。

※冬期に地上部がほとんど生育していない雑草に対しては効果が劣るので、これらが多い園地では春夏期の雑草防除を主体としましょう。

#### 🍏 秋の農作業安全確認運動実施中 🍏 (9月1日～11月30日)

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

- ◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！
- ◆危険個所では原則、迂回を！

